

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

2月、球春到来。キャンプ地に行けないのが残念です。30数年前の話。札幌・ススキノで飲んでも、仙台・国分町で飲んでも、博多・中洲で飲んでも、テレビの野球中継は、ジャイアンツ一色で、お客も、板前の店主も、オレンジ色のユニホームに熱狂して夢中でした。今、北海道に行くとファイターズ。東北はゴールデン・イーグルス。九州・沖縄はホークス一色。広島はカープ女子！

根本陸夫伝（プロ野球のすべてを知っていた男）

集英社文庫<まえがき>より。

「現役選手は実働4年で輝かしい実績もない三流捕手。4球団で指揮を執りながら優勝はなく二流監督。低迷していたカープ、ライオンズ、ホークスをその後、黄金時代へとつなげた男がいる。

男の名は、根本陸夫」。名ジェネラル・マネージャ（GM）の根本だ。

根本自身は、俺は「勝つ監督」ではなく、「基礎を作る監督」と自認していた。

<伝>というのは、年代を追った編年式があるが、この本は「証言者」22人（組）のインタビューで構成されている。

カープ・衣笠祥雄は証言する。「根本さんはタイガースから、2,000本安打を達成した山内一弘さんを獲得し、カープの選手にとって<お手本>でした。広島大学の教授を呼び寄せ、徹底的に肉体を鍛え、専属のトレーナーをつけて健康管理、食事改善。小森光生、関根潤三、広岡達朗の三氏がコーチになり「野球理論」をみっちり教え込まれました」今でいう管理野球、ID野球の走りだ。

ライオンズ監督に就任した根本は、<お手本>として野村克也、田淵幸一を獲得する。

根本は後任に広岡達朗を招聘し、監督に据えて、常勝「ライオンズ」を迎える。

根本が鍛錬したライオンズの選手たちが、今、パリーグの監督、指導者になっている。

根本は、福岡ホークスに移る。根本の口癖。

「新しくサッカーJリーグができる。このままだと、野球はサッカーに負ける。これを巻き返すには、野球はON対決しかないんだ」

根本は王監督招聘に動くが、王は「僕はセリーグしか知らない」「東京の人間だから」と頑なに根本の誘いを固辞する。その間、根本は周囲に言っていた。

「ワンちゃんは最後は、絶対に受ける。野球人だからな」

最後は、根本のワンちゃんへの殺文句だった。

「ジャイアンツの長男は長島だ。ワンちゃんは次男坊だ。福岡に来たら、長男になれる」

根本陸夫、1999年、急性心筋梗塞で死去。2001年、野球殿堂入り。



これからの予定 2月の定例会も、残念ですが中止です。